

2026年度 14期

「土佐日記」「蜻蛉日記」を読む

日時： 4月27日（月） 10時~11時50分
場所： 高槻センター街ビル
講師： 現代歌人集会理事長 林 和清先生

テーマ： 「土佐日記」1

■作者 紀貫之について

平安中期の貴族

和歌復興の時流にのって歌人として頭角を現す。

醍醐天皇の「古今集」の命を受け選者に任命される。自身の歌を102首入集、これによって歌壇のトップに。

■「土佐日記」について

50才を過ぎて土佐守に任じられ赴任。その帰路に起きた出来事や思いを描いたのが「土佐日記」である。土佐から京へ戻るまでの五十五日間の紀行を女性に仮託して仮名文で綴った。

日本文学史上、初めての日記文学だが、より紀行に近い要素を持っている。その後の仮名による表現、特に女流文学の発達に大きな影響を与えた。

■本文の読み

有名な書き出し文

「男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、すなり。」

で始まる本文と現代語訳を交互に書かれたレジメにそって読み進めていく。

女性に仮託した理由について5つ上げられた。

- ①公の立場を離れて私的な立場からの感懐を語るため
- ②五七首もの歌を配する異和感なく構成するため
- ③虚実混交の記事内容を統一あるものにするため
- ④他人への中傷など貫之の立場としては不都合なため
- ⑤感傷的な内容が男性的でないため

■最後に

学生時代には序文で終わった「土佐日記」が先生の現代語訳の講義で改めて理解を深める時間となり、次回の期待が増しました。

